

平成30年度 自己評価表の公表

		チェック項目	取組状況・改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	急な対応で、定員を超える日がある。
	2	指導員の配置数は適切であるか	3人をきる日はないが、送迎のため3人そろって支援が始められないときがある。
	3	常時見守り等が必要な子どもが利用する場合には通常より多い指導員配置がなされているか	公立小学校の児童のみを対象としているので、常時見守りが必要な児童がいない。
	4	指導訓練室内は個々の子どもの状態に配慮した環境整備が行われているか	学習スペースと遊びのスペースを分けているので、児童にとっても切り替えがしやすい状況にある。
	5	事業所内の安全対策及び衛生管理は適切になされているか	常に危険な箇所がないか、また衛生にも気を配っている。
業務改善	6	業務改善を進める為のPDCAサイクルに、広く職員が参画しているか	Cがなかなかできない。
	7	保護者向け評価表、アンケートなどを利用して保護者の意向等を把握し、業務改善につなげているか	普段から送迎時や保護者会等で頂いた意見・意向を療育に反映している。
	8	この自己評価の結果を、ホームページ等で公開しているか	実施や公開が遅れていた。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	同法人ないではあるが、違う事業所からの評価や意見を聞き、業務のに見直し、改善に努めている。
	10	職員の資質向上のため、研修の機会を確保しているか	法人全体での研修会を実施したり、外部での研修に積極的に参加したりしている。
	11	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成しているか	月1～2回のケースカンファレンスを行い、個別支援計画書に反映させている。
	12	子どもの状態と支援に対しての進捗を把握するために、統一したアセスメントツールを継続的に使用しているか	○学習面と生活面の1・2号館統一した評価表を作成してはいるが、生かされていない。 ○個別支援計画書に評価表を合体させ、現状や達成度を共通理解するようにしている。
	13	活動プログラムの立案を必要に応じてチームもしくは複数名の職員で行っているか	役割ごとに企画・立案し、それを基に意見を出し合い変更や調整を行っている。
	14	子どもが楽しんでプログラムに取り組めるよう工夫しているか	子どもが興味を示すものはもちろんであるが、趣向の幅を広げるものも取り入れるようにしている。

適切な支援の提供	15	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせているか	個での活動、小グループ活動や全体での活動など、支援プログラムやねらいによって組み合わせている。
	16	支援開始前に職員間で必ず打合せをし、その日の支援内容や役割分担を確認しているか	業務開始前に子ども達の様子や欠席等の確認、打ち合わせを行っている。
	17	支援終了後職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか	業務終了後に、振り返りや気になる点を情報共有している。
	18	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	毎日の記録をとっている。
	19	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断しているか	定期的にモニタリングを実施して、保護者の願いを聞き、児童の状態、伸ばさせたいことを明確にしている。
	20	ガイドライン総則の基本活動を複数組み合わせ、支援を行っているか	事業所独自の支援プログラムは多いが、おおむね添っている。
関係機関や保護者との連携	21	相談支援事業所の担当者会議にその子どもの状況に精通した最も相応しい者が参画しているか	管理責任者が必ず参加するようにしている。
	22	学校との情報共有(行事予定、下校時刻)連絡調整(送迎時の対等等)を適切に行っているか	学校との連携は密に図っている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	小学校や医療とは連携を図ってはいるが、幼稚園や児童発達支援事業所との連携はできていない。
	24	学校卒業後に障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供するなどしているか	記録や情報の提示は、保護者同意があればいつでも行える。小学校期までの支援施設なので、該当事例が多い。
	25	専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	研修の場は確保されているが、職員全員に同じ研修の場所を与えることは難しいので、研修報告書を作成し、共通理解を図っている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	地域の自然観察会やお祭りなど一般の行事に参加している。
	27	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解をもっているか	保護者との連携を密に図っている。
	28	保護者の子どもへの対応力の向上を図る観点から、家庭での対応方法などについて助言等の支援を行っているか	保護者の悩みを傾聴し、家族支援に力を注いでいる。

	29	保護者の子どもへの対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレントトレーニング等の支援に関する情報提供を行っているか	保護者の面談を通して子ども達の関わり方を具体的に助言している。 保護者会を通じて、適宜話をできる機会を作っている。 ペアレントトレーニングというほどにはまだ至っていないと思う。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担額等について丁寧な説明を行っているか	契約時に行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援をおこなっているか	○保護者の悩みを傾聴し、家族支援に力を注いでいる。 ○パパ会を運営し、保護者が自分の子育てについて他の保護者と話し合える場を設定している。
	32	保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	定期的な保護者会を開催して、様々な報告や確認、研修を行っている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	苦情を受けないような、児童にとって利益となる支援を、常に意識している。
	34	個人情報に十分注意しているか	個人情報ファイルは鍵付きの棚で保管し、文書の廃棄はシュレッダーを使用している。
	35	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	児童を中心に据えて、保護者と情報を共有し、具体的に、どうあるべきかまでをお伝えするようにしている。
非常時等の対応	36	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	策定し、使用しているが、保護者への周知不足である。
	37	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	年に1～2回 避難訓練を行っている。
	38	虐待を防止する為、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	虐待防止の研修会に参加している。
	39	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うのかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、支援計画に記載しているか	身体拘束が必要な該当児童はいないと思われる。
	40	アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	保護者からの指示に基づいて対応しており、医師からの指示書の提出は行っていない。
	41	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	共有している。